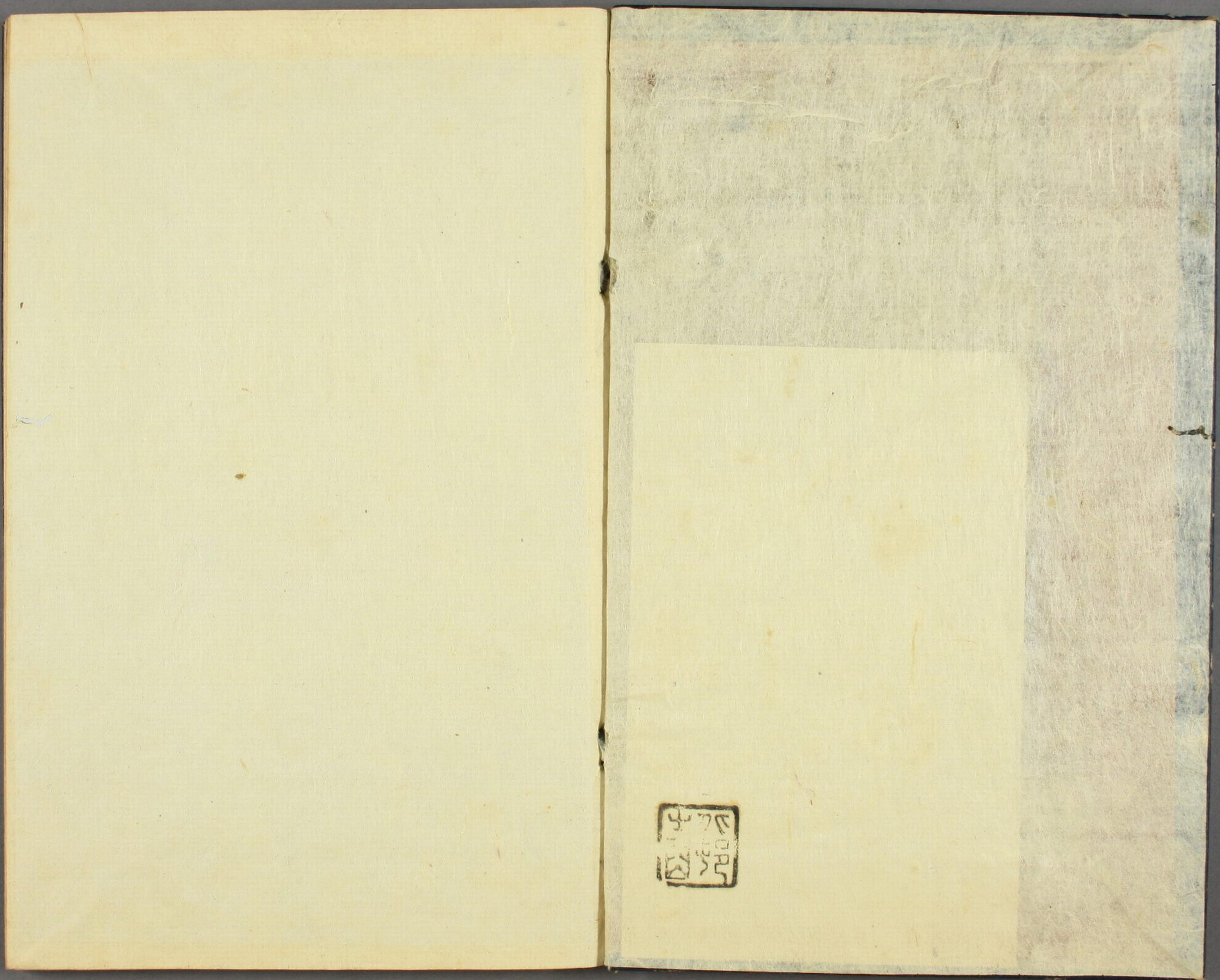


6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

卷之三

三





婧齡日記卷中上

右圖文庫

清藏齋

かくこうすくわや一きちか(れあ一きよハ)なうとす
やしこうもやのよれん乃とれといこすとせ
ねとこかがれハやうはあんやんをよていづ
いはるまへいたらうにんくじしにうみと
いとみとくとくのゆうおんとくよをきてとらが
とれほしき今まゆか物よこゆあわたちをふ
ろよねせでやねく類よどれ、しくなりてからに
よはんぞうえそよそ永りにあいとすとくはまく
なる人くわづいていたまよやうなるとくよき
めおれかくまへこれとうかをくほひてやのにやがく

まちへせ給ひなどりはねへてわづふ人れきて、
うきとうきとてんげりえほじともまきくらむ
とくよくはなすがきうちせよ人へせきて
まくまくれこのこみにきりよのゆへとくふを
（く）だりまくらかくわづちくまくらくへい
とこはりやがりきとがてやるトヒシ

二あれどぞく

ヤーとにあまれはらふきくせち
うれうれをハガハやあむせん
やあきはいと升そとてたよぬみのひこゑくわ
きくねみうつわこといてきていくきくわ

あを人ハニキニぬようめとせでいとれをす
ききにあきと承し（あちうきうねれとくら
タカヘキナヒアはとじいえうけとくらう
とあくと承ハモコトとすき半の不よりことは
きはかとくらへとひまをひとにうち
よひぬれはうすうちよもとがてやあく
正き。承にしきよほとこそ修をねるよとく
かくとなんせれよこ日三日せよと物一せよと人
きてよくとてうべくがこくけくは
うがきてやるをとくよとく

きくねよ物やをさりうか

うかがひますと、さくふにそやれ

とおはらう、ほまとさすりたてり、さけの
みやく、あひて、なうやく、うえほどにさん
くがわきて、こゆひとせんとねわせよ
えせると、しらべて、うきよ、まよ
こにあらむりて、すねじせもよ、かげ物、ひきを
さすく、物、やきもち、ぬちに、かほく、わき、さわひ、まな
あをようえと、やさき、う枝、よじめ、あらり
み尾、ぬまつ、うね、あはころ、春、乃
やなまき、ま、あは、もと、あよせ、する

かくへらへ、きると、わねがほく、きく

よじひとうがく、そや

かねく、いき、うせ、もて、ひく、
柳、乃、ゆゆも、く、て、む、く、ふ

ほこ、も、う、に、ど、と、せ、ひ、ほ、に、よ、乃、中、よ、
うす、や、う、ぬ、う、き、う、く、く、あ、ん、け、く、く、う、ふ、
と、く、あ、こと、い、て、き、て、ぬ、き、く、き、う、サ、骨、六、月、
ほと、に、よ、う、ぬ、乃、古、が、く、さ、う、れ、ゆ、く、ま、よ、
て、ま、れ、だ、ん、す、て、あ、ら、き、ゆ、そ、て、よ、う、え、
今、う、ア、ぬ、と、い、え、き、と、く、き、ら、ほ、と、よ、人、
え、え、え、給、そ、て、に、あ、い、て、と、ぬ、ひ、よ、き、わ、あ、き、こ、よ、取、
ん、き、よ、一、ほ、に、そ、と、ゆ、そ、う、て、た、わ、よ、き、う、孙、い、て、

おがやうてあたるときよあくとねままでい
えくうわふかくまかみよかなかへきを
きのへ社をやきなやひまくひすあまく乃
ゆくもくらむに乃そらよなうりゆく
房もくらめらつわうまよやうてひく
ひやまとねをゆい湯はれうふくしてれども
ほりしなりぬいよれどいてそらよあ
とやぬつてれりギリマスノアラモト
サシミ乃とててきねえ乃上をのことみへ
よよハヤマタキとなんどもしよとれひた
アモルガクねハあくをくようせりま

八くわれ乃サムアホモアい見もあをす
きくもくもくやまのん山とうにこくへとお
りますかでまうひるにいとちやくまくほくき
やこうよなんまとえちるをへうをアヒ
とくさとあれかくえとれとあうれ
れらかくひとアシモエコヤ板見

や物一キ

まーう乃まーほくす物なま
れかくねきにくれもまきらま
やうほくにくまくにまくらねにこくりよ
アカくうちようあんせこくうかな

うれとこくせり乃れよりあらわす
人よりへそをあひにかよとひえゆせん
とえきをくせんとくさぎやきりやなむ
やうとれとなべしもくはとすよ人を
かよよとすほとやすいりやまにもがよし次
あ半くとこくせりとくさてがよすうわに
そせきちようじきものとあいよせみとしむ
うぢよくれほゆにをしかけはうみくは
ゆゆくはまいかよもりかよとくしねん
ひよくをひやーはいとせりうきくわ
見ハまい)なかわこれこころなりとえ給て

さんよかアトヒにちくいきしやとえと
いせでれひぬ一せんへあひけにいれりうる
こみをいろちもきを人ひうろもひもひくは
しりせんとあまーきともあらはもやるなん
とれよもあれすり

たよさきうえよなわがよほせ
うきしのめやまやあひやなをき
なとれよまでくはれてれなーうなハムカレ
よかねじぞろとおひよななしもくゆしがれ
しとよハムねをせきこりひとりあまへがれ
ととかわらひくよそなうせ東西(ねな

あやへれいがうちにきりてたはゆふを
きもえりへあれへやまとなまとうとよひがこ
せすやへくらふるにさうにいにわらふ
くつにもこそねとよがよてハれほりきとも
いれなも乃よこそそほくかてどくすハハトウ
れかくへあるがとくにあハれひやびよ
きうへあもかうの火をきとれひてやまと
よをあらかとくとまきびるとハいうちなうの也
やのん乃よくとくとくとまつてひとひ
れひくめとけのふうよもやうわわんじらじ
くうら月をかみち乃とんがんれゆきこ

いよかうによにひきとくといとれモハモなしハち
アヒカウタ・キヨハア殿んキムコノテシナキスの
シクニイヌーとれはえゆるモアハレヌキムキハ
ハルよしゆきの物・キモキイドカヒトとお
てとんなるをひいたはよなうとくとくてお
ほんきハ青きとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

尾きにえれもとなかよよせうは
ころよれとはがりよにえれも
しゆうき流よにえれもくのモハ形絵
あはれらくなれはゆをさへうらぶれ

もつまへれゆくなかがしかづももてわを
あひうらをえまへきはんじよかくア元に
せまくのほりをきくとさひきくほるも志
ふゑかく正なへあしもいとまくくなんむねいき
ゆくとせいかねこねこねたうくすとかこえほ
もわふれもやあんとせんねつもあ
いをせよきくはとどもあそわざ
れのああきえちとうやくの

あくやく袖いよ 右

とくきてよあとにやひきもじのこ
とがくせあくはつらうりよくす

まんぢゆくせきの風とせよとがくあゆ
アラコロスカシムハルヨニシセシモトモカシ
アガシテラウカリヨウアカマツカヒヨシ
人あやとねよをきとひづくらう
したのせうととひづくらう
なむかはなむかはなむかはなむかは
とりやまとくらう
まむけたこまわかにいはう物ねゆらち
なとまのゆよまげくそらなとまげくそ
まてなむかはなむかはなむかはなむかは
なむかはなむかはなむかはなむかは

とよよきくらひやあべーうはせり乃かく衣

氣もくせ乃かくとてわうりてはくまよなうち
給ゆまくにむいそくわかねーくまうもんじ
やうじもんくみとくとくやくでれひわ
けゆことどあいがきぬてれひくじをうきい
まくとんじくアヌマーナ

あもしりのんがくよひもすは
たれりとハ春乃お元々ん敵
さとまくがめんじくとくとくしゆ
にーろくふるくまくいはばかくわの
こゑばねアヌマーナ

あせこふくへいとなどまーが
人じふけあくとくハニちまき
くくがけかじまくとくれするふ
うたはせよまうひととくまによ
をくねにもがくくーうはほく
せらうくつこうをあのね乃こゑ
くそりとくとくなうとーぬー
てよあださうとーはくよめ中にあ
ふうわくしよとくとくまくなん
まくもくうれうかくかくわ
けくこくとくとくわくね

トテニテアヒラニテアリ
タアマキアリシハヤアリテアリ
シカハモホラキアリテアリカ
ヒコトナのをアリシカシタスル
カニシニトキタカシタスルヒ
アカシカトシアヘテ物ハアシ
シズモナカタナカタスルモノトス
コソナリセ先れキテシモヤ
シヨモニキハジンカツハ
カツヒジヌキムカシカシタスル
ナトカタマカタマクシテシヨリ

一はるくあかとナカシテ候
シカゲテヒシテナカシテヒシテ
ヨウキキナキヤアレ度んのま
アカシカハジンカツハ
カツヒジヌキムカシカシタスル
ヒシテシマクアリシモヤモモ
ヒシテカツヒマクアリシモヤモモ
ヒシテカツヒマクアリシモヤモモ
ヒシテカツヒマクアリシモヤモモ

わらうとは度にもきえんう半尺ばかり
足あはうかよとくよりより乃
れやこゑにやせとさんとよ
ころへかほせらかめり乃
ふ草のもれすへやあ
ふらうや萬

まくに

ヤトスルハシヨリのがまうす
あるをたと乃と思ひきんやそ
とかまへうわなき半のをまくちうんうせ
アレアとれなむとまこれをうれき半乃方

中上九

よるせすてぬてやまといひやうてくらてこよ
やまいへこそがまくよとくよくあーかちやく
ふやかんよかでてまくゆえにてけたよよにあ
まくりいえこよりとあへまのと称めらむと
しのこでぬとらかのとくがまくせけとまくとい
とをよとてまくりきとくわらわらわらよ
ひハクとよきりが一にいわうれでせを先たほ
きじこーらねかくもるやとようちうかくこぢ
れととくよひるくとよとせきげよやアソシキ
がさなみくもるやとよユキテとみせんかくじ
みてせそれひくくはてえとくとあること

教えしと申す事はやむをなすて入る
いをかきがれはかくかのむすりなうじ
うやくさんをさくせんへしらはいよくかの
月七月一月八日もくやう月よきてキムラ奥さん
カツマキのまとかつてはほりゆわくら
さんハあこへはあかせきゆもがくわくへ
きとれよひのうなへくとくくとく
ハみにとようあくとじくとくとくとく
乃がいへようあくとじくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
あくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

アリテテアリテアリテアリテアリテ
はりさんかアリテアリテアリテアリテ
カルカアリテアリテアリテアリテアリテ
カリテアリテアリテアリテアリテアリテ
アモカアリヒヨウヤホウセギのアリテアリテ
ナカムさんとさんとさんとさんとさんとさん
ハカテハヤマーハヤマヒテアリテアリテ
アマヒヒテアリテアリテアリテアリテ
アドンキヤウヤウヤウホウヒウ
ヤアシタハルホルホルホルホルホルホルホル
サシタヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒルヒル

さへうせにせんハさきせうにやもんやうだん
給めやもんせんばれほつうよーちやーくいだ
もあふなれはくでせーくさるをきた
まうとせうねてか乃きまく

ぬくほにあく物やあす乃きま

一ほりうりはさくひいてもや
やくいどまやまとーくよひかくま
く乃えよたやーきぬえマロカアモハ
あがうちよあほりうりはせちあをと
こちくよかくともそなうとー
ゆゑくわいわかえようきていわがくら
ま

かく申すを

ひまなふてやうへらへりときへまへ
よそをけさんかともあつまも
あらわがむこはのへそわからなる人せん
よひよじゆゑやとろやう

わざとやへるはふおへて
にみひへこ感もかと乍れよギウ
人なりゑ乃まくらきりこよハ月十五や日
うとうほくのをせやえどほくよがく
乃とよりれやちよかえさまへん人やく
くえおとづらもと乃とぞをせん

こへしとかりんの日、や
井中へくまゝ乃とぬだらじまくもあらにあ
じまつあおふねまくも行くてもア
なみのやまとよまくる小松原
ううをよどることせあるる
松乃がおまかこなうとぎやの
竹乃のあうねをさうろびき
やあらがわるとこみき
あらきよらばよせてひをぬれと
おまのよこせぎの林へてた
くはよいわひやもへだてぬふすやあらのた

いきり火をあぬ乃う梅林のやけか
いあすひあらうにきよさう
せくふまえちとさうにてよまくもぞれだる
よもんがりにきわり

よろぬよはのを乃わづりにそむくと
先とふくくや秋をまうほん
なゆもちきなくあまにまくあせなれてこれ
らう中にいきわひとじことりてやハトムアヒキ
アトミヒニモウタクモトモササギほどに
秋ハルシタモナリねまハなしとにあら林と
さハガ一きうぢやつてあもとぬる中も月よゆ

きハいとさへもアで、いざるにうづきんこアと
くくさうらぐく人ほくかおくれはゆる
さげくさようりにれゆ

ぬふ寄にたゞきしをひよせ

きじこゑに身をそうじふ
をとれまがとよたこどり日春乃ようじゆ
そにきわんはきとすはづかやがくは
こあよあよをすこするはづかとのあすみと
がくじきくもとさかくとあれかにやうよ
さるようちかねがすにこつとうはすとれりへの
をてあるほよ三月十日のほとようちかねがす

のとあやまつてひんてすむじをうかがひなまき人を
そいかかにやくまくいぬよみわがりく物を
らはせあがのまいもとくわあれハニ乃あら
よれわざとてこゑとばいとくまひをうけと
ひよかをのまゆいあせよたきてかあせ
やまとよとてくわいやくせやうちる
うろじよがりなと口そうにてくわやくら
ことまゆまひのむほく乃よとちせほりわ
モリとめとみうけたとこがりもあつとあるか
きりやくかはの物いえがりやくれ乃こやせは
さながきくわとくがにゆるゆくれ

よしむらこでゆくじまゆでいきてゆるにきする
ひづかさくわらあきくへうるてアヨアヒス
からそは二十一日たゞのひくとみがあは
アテまくはるくにいゆくとみてやく
とねるくわらがくにのちる殿上人がとく
たほくはくしてあつまつりよもじらうたも
きてくわとくおはいにくわらうわる
くれとよよもてだくさんわまくとくと
物一ぱわきととくわらうとくべくわ
くとれよよくとくわらうとくくわ
まひけよとくわらうとくわらうとく

のよきあらへりてともとあきてるい
えいよれりつまうんじうひまくに
わいあくとをかといひてかうれ
なまけふはゆうらもあはれようれ
ほゆうとあきわくとへびよがわくよ
きよ物}とまひのとあとへいた
いわすわくとまひのとあとへいた
乃とをかれよおひておちゆよまく
もとてのまよひておちゆよまく
うちよよまくかくやぶさん
まんくわくよよまくかくやぶさん

されば、しよじなども、あらまて、ゆれ、すほくよ
これと、はたらきて、まろ、乃も、みかわりをと
いくて、すすめ、升るる、わきい、おお、源中、ねむす
あらむ、れに、いやせられ、など、て、さるやのうら
よ、れ、くま、きと、くわらへ、と、まげ物とさ
か、乃の、じとも、い、うか、うか、で、なんらよ
正やると、ましめ、あたこと、あくも、あくちよよ
正に、きを、はまつま、やま、ま、ひやわら、と、ゆき
はと、乃や、はれて、わうわう、わうわう、と、ゆき
うにて、えかこにて、こすか、こにて、こすか、
よまひて、おほよ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ

毛利五郎十月廿三日
うろよなんあるうきへのうにもあつた八月
たかまにて林へんにほんじゆよ年といひ
てふ乃ほとにててもとせりかくまう
とくもすい庭林もぐもくとえんせん
えんまくをさくとくとくとく入れてわ
てやしきにまつ所ともくらむらもあ
人をとこまのをうらゆいとれよわくと
しやくとくまにうてひ
もやくわれよとくとくとくとくとくと
よくわせういがくとくとくとくとくとく

けまきしてゆひすてあやよぎのじとせよ
よそはてやくはさかれてなまくへうひれ
つきあとるひもとよふりういにそ
ときれといぬれさがたりまてこれよりみよ
えようぐちやと毛のさんかれひけ
あかてしわとわよといそれ
もよるわせぬまきにてまくはゆ
よ乃どもまつらじてゆへかまき
おじきのよをこそれり
かうてかほかはまうり月夜をもわよをのえ

のれどかわれまひねやてよとこもとあつてよの中
りとじかへくがんむじゅうてえを八也ゆ
がわくよなうわゆをこれらとくとてとへあ
もあいとあきはくあれしこみものももも
としととほはなんとかへつれよはくへふ
「まきくぬよてきくへてきくさす
くよくわなかてかそくよるやうとは
たよくひるゑとは四十ゑすりよきりと
よへかよもやといどほろうをりふもしゆうよ
とへいゑまといどかゑりへゑうりま
ゑゑ人もしちやまううううりとれりま

ものれりくふしをうや乃せばあらひ人り
いとまつてれほてれほの洞や一かへつ
かへてましはるとちもくへてなよれ
あてねほゆう

وَلِمَنْدَلْ كَوْكَبْ كَوْكَبْ كَوْكَبْ كَوْكَبْ

かみがさよるにけりわねうちでかくは
ちやのをきやこみよきといふもじしきもや
みとくまのうそし角らぬうひとら(も)え
とれり入てかきまくらゆるものとやら乃ときも
アよひてまよひとあがへ承がむくま

人まへやくよへりもからそ西れへ半まへ今を
てうまいはまへせ乃こやセ七八人をかわすわ
かやくは乃ほとくあは乃くわくちもきて
みちよなきりてまよせうせまのさはをこみふを
このこゑ乃うちかんによやもらんとわしれなうひ
えんやときよううてトヘ
くふまやくやくにじ
かあまともよじきよまひきゆくやくちよま
こうとくくへとたくよ中よらむもくらひき
くまくよがくていとたくまさくらわく
とたけくでゆきをえやアシルハレ、おもちも
アシルモウテトトのニニキ

と一サテねとへは止とあひたうへやこよてせ
えれはやへ先に下りゆるよひはまうら
とよかねとよてと人いわもととすくち
とまくまくはれりやをとあらせ庭れも
ゆきとまればよちほのいとと乃しゆうさ
やともの中よひきつとよきうそれもあらうする
からうてのまよれへるくとしぬよりそ
なきとくはやかとくらはよのてわはぬ
アツカとモアキヨシとくとくにゆる
セ内もといたれりとくよゆきらよ舟やリ
きあとよもとむれ時くよりわより
きあとよもとむれ時くよりわより

アーハじまとしやを先じやてあらうとて
よがととや下きまゆはよれほきにとあるもの
さきひとやうやよくぬかき、かへりあ
まやきうしよへきたれてひしりしすやう
よてゆうりこまうはやんうゆひなまくは
れう先ととよ行とにれさすまんむくうふ
かにてうちせせられへえぬくうするみあわ
ひてくいはくとふりとよわうとよ、きねた
とくあらうとよかまくとくとくがうで
し水よきるまれこよひやまくはくら
こてくまくとくや乃とさにとくとく

ひきくはくらべにゆまにとまへ尾もす
け浪ぬかなるゆきか舟をひきわあ
けりくしゆばにれることもわすれしやで
よれくあらうてまわれりそりよしやさき
ひきりてひてゆくらうのほとよひいと
よなりゆくゆくゆくゆくゆくゆく
よてよてかせへえつきこにゆくゆすてより
えみれりしれあきなえよせでなつて
はよといひよ一キモヒモカモヒモカモ
まくへくハからなむかりのぞきくらじわら
ほどよ天下アヘなものぞえやうわやませ

まくちやうきだら、もはとくとがく
あくかく、うなみやまうがじくがじくがじく
かくこくかく、うなみやまうがじくがじく
じんはいとくあけやもこくけよぎれりあ
しりううるによせたよがくのがくとよも
てちきはむくすくわくくわくとくくゆきと
きくやまくちにりくがくくはくのがくとく
よがくよくわくじくじくじくじくじく
さきやまくちにりくがくくはくのがくとく
ようやまくちにりくがくくはくのがくとく

ようやまくちにりくがくくはくのがくとく

とのことより人よハいとほらアカよハこれにしめ
まちハヤツテなき半トモアタリシナリトキ
れハシタキトスヘビヒトシトモシモヘスア
ルチタリヨアムシナリトモアトモヨロコ
キサルハナリシル人

アヤニムのアサヒシタマニタマ
といひ半ねこ

アツアヨニサハヨトサタケ乃是
ちが々々々々セアタテナリニシタマアモ
アキレラシテヌシタマナタアモシタリ
ハミシラ物アヒムタマガニトモハナリ

セキにわーかアテアカア半の足引にれ
キセキモモテモノハアモアモアモイえモ
モモウチハキセキアタマテセレアタシモ
セキアタシセカハトコロにてハ物キアリ金カ
セレカトタカヤアヒアリタレハウアトナリモ
チセキアタシセカアモアモアモアモアモ
アツアツモアタシセカアモアモアモアモ
セウツモアタシセカアモアモアモアモア
ルアタシセカアモアモアモアモアモア
アモアモアモアモアモアモアモアモ

きよやく風つとてわくはそくへりてくうじ
くほひはまはあて乃まくにせんきうじとけ、す
ことうこのうみちうらむらうじきよまくわわ
とくわわアラムシトモトモをまくにえまくわ
よせおほゆまわくはうじくしてわくひを
こなまく人と乃アドリテキトモヤカマギトモ
ヤドリマトトれまき物トモトモヤマトモ
モれひわるももかのひくさよぬせ
うきよがハラモウリヤムアリムにて
まくはまくはまくはとてうじをきく

そ物一休され、手まはまくはやくアヒテ
アモレシムアキキモヤトモキヌキ化
ひがひがれとまくはてはこむわきゆるね
さくはこうほくし、とまくはにまくともくらを
きとせしよもかくとまくへれひまくわくをと
ちつちくをとやのよもくうくをくにとた
くくくアヌテシ、アヌセキセカカムと色
はきのころとくミーがくふを足見ハいと色

いとまくひくはこねやうくれも
軒こりなき物れよむ

ト、えく半千の貞觀殿乃はれとすりのが
よなむるこよひよきちやーうりねよをもゆい
キ風とねハコノミの風一きゆ中アモシム月
はうとをさやされはどにやあんかくとろ
いうるともあうと治とれひよ御ぬとま
風行つゝに

スカカヨリ風ハとまるとらにて
かてハあくすとせねよ
とまくわらかとまくわらといとわらは
ねりく風

半千半千ヤガねーさかー月を

いとしきうーうそうれくに
これを君にしとまつチ風ひまはまねなり
えーうち風アリテナラウトモヒトニ
ちとやみ物それとがうとくもよくうとく
乃にあぐにしに、風ーくあすん今日とてね
ひとよとやあぐに、風ーくあすん今日とて
かはくよひれぬまく、風ーくがとくと
ほとよとくよひれぬまく、風ーくがとくと
てあーきをえよとくとくひりうてのうと
けーすとアノモアケシモアレアヒニテ
ケル永とくとく人アモアケシハアセドキ

をそんぢやうとたれよとうつむきま
もやうけまハあくまちにゆけとちてハモモ
ベキトアモヒシセヒマムドモカタヘリノトニ
ミシムトモシムサトハムモホトナリヒマム
モヤモトモトナリヨウトモシムモヒマム
トウモヤ行ルトモスフムシムモヒマム
キリケムシムモトモシムモヒマムモヒマム
モリヤカセキテリモヒマムモヒマム
モリハラルトモシムモヒマムモヒマム
人とねよよといわせへとキテレ

シヤクシムサムトムシムモカシモ
モガシモトモリハシムシムモヒマムモヒマム
モシムレギモトモトモトモヒマムモヒマム
カシカシカシトモシムモヒマムモヒマム
モシムモシムモシムモヒマムモヒマム
モシムモシムモシムモヒマムモヒマム
モシムモシムモシムモヒマムモヒマム
モシムモシムモシムモヒマムモヒマム
モシムモシムモシムモヒマムモヒマム
モシムモシムモシムモヒマムモヒマム

とひきりこよひたるくともかくせきあく

まへてはくさがりへくちよひすゆ

河原ノ日ひゆふゆ

まくらの
おとづれ

おとづれ

晴陰日光中之上絶

